

岐阜県嚥下障害研究会  
**モグモグ通信**  
 No. 34 (2019. 5 発行)

4月から事務局が移  
 転しました。入会申し  
 込みやその他の問い  
 合わせは下記へお願  
 いいたします。



発行所: 岐阜県嚥下障害研究会  
 事務局: 岐阜県加茂郡八百津町八百津 1286-7

## 「終活に向けた食べる支援」

第 22 回学術講演会東濃大会  
 大会長 二村 洋代  
 (地方独立行政法人  
 岐阜県立多治見病院  
 摂食・嚥下障害看護認定看護師)



この度、第 22 回学術講演会（東濃大会）の大会長を務めます岐阜県立多治見病院の二村洋代と申します。今大会が、参加されます皆様にとって実りある大会となるように 2 月から実行委員会を立ち上げ準備をしております。学術講演会は 2019 年 12 月 1 日（日）に多治見市のバロー文化ホールで開催させていただきます。

私は、摂食・嚥下障害看護認定看護師として、教育・相談・コンサルテーションを行っております。病院内では他職種で構成されている NST(栄養サポートチーム)の一員としての活動と共に、入院中・外来受診されている患者様・ご家族、医師・看護師などから、栄養状態や摂食嚥下障害のある方の嚥下機能の評価・食事形態・口腔ケアなどの相談を受けています。内容によっては、医師・看護師はもちろんのこと、管理栄養士、言語聴覚士、歯科衛生士など他職種と共に協力し、対応しております。在宅医療との連携が必要な場合は、退院調整看護師や地域とのネットワークを活用し、訪問歯科衛生士さんの介入をお願いすることもあります。摂食嚥下障害のある患者様のケアを考えると、患者様を支える周りの方や環境なくしてアプローチはできないと思っています。これは、私の日々の院内外の活動においても同じく、多職種の方々に支えられていると実感してお

ります。

東濃大会では、摂食嚥下障害について興味がある方から実際に関わっておられる方など、多くの方にご参加いただきたいと思います。そして、日頃の活動を振り返り、今後の支援の一助となることを願い、大会テーマを「終活に向けた食べる支援～当事者や家族に寄り添う意思決定のあり方、その後のケアについて～」としました。

“終末期”という言葉ではなく“終活”としたのは、現在健康な方も含めすべての方が考えられることであり、それぞれの方が考えた終活に向け、日々を過ごしていただけるように、との思いを込めました。

午前中の特別講演では大阪大学歯学部 顎口腔機能治療学教室 准教授の野原幹司先生にご講演いただきます。先生は嚥下障害がある認知症高齢者の食支援について著書も多く、この分野で御高名でいらっしゃいます。ご講演は、「認知症高齢者の食支援～終末期をみすえたアプローチ～」と題し、認知症について、認知症のある方への食支援方法についてなどわかりやすくお話いただきます。

午後からは愛知学院大学 心身科学部健康科学科 准教授の牧野日和先生をお迎えして、人生最後の食支援を問う「お食い締め」についてお話させていただきます。その後、東濃大会ではおなじみ!の、地域ごとに多職種で集まり、意見交換ができる場を設けたいと考えております。そして、この場が今後の活動での顔の見える連携作りのきっかけとなることも願っております。

実りある学術講演会となりますよう、実行委員会のメンバーで準備を進めておりますので、皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

## 第5回 研修会レポート

### 小児領域研修会に参加して

岐阜南訪問看護ステーション  
理学療法士 山田智子

今回は私が訪問リハビリで担当しているSちゃんがモデルということもあり、今後の支援についてさらに考える研修会になりました。

Sちゃんは難病を抱えており、日常生活で出来ていたことが出来なくなる難しさがあります。そんなSちゃんの食事場면을、野沢先生が評価し指導しているところを見せていただきました。

野沢先生のお話にもありましたが、いかに効率良く安全に食べることができるかということが大事で、そのためにSちゃんの現在の口腔機能について、食事の姿勢について、介助の方法について様々な場面から学びを得ました。特に食事の姿勢についてですが、先生から頭部の押しつけが強いと指摘を受けて、今後の座位保持装置での頭部やリクライニングの角度について質問をしたところ、とても的確にわかりやすく返答をしていただきSちゃんだけではなく、今後自分が関わる他のお子さんの支援にも活かしていきたいと思いました。

講義中に先生から「将来のライフステージのことを話しすぎると追いつめられる」「将来こうなるという事に目がいきすぎて現在の問題を忘れがち。まずは今できること」とお聞きして、ハッとさせられました。どこまでをどのように伝えるのか、どのような時にお話しするかなど、まだまだ悩む点は多いのですが…。まずは今できることを把握してSちゃんに丁寧に支援すること、必要なときに情報提供が出来るように正しい知識や情報を得ること、見通しを持った支援をすることなど、大事なことを学ばせていただきました。

これからもSちゃんに関わる先生たちと連携させていただきながら支援を続けていきたいと思えます。ありがとうございました。

日時：平成31年2月24日（日）10:00～16:30

会場：各務原市福祉の里

日程：10:00～ 症例検討会 I ①～③

提案者 各務原市福祉の里たんぼぼ

言語聴覚士 齋藤 佑規氏

11:30～ ケース児の食事場面の検討 ④

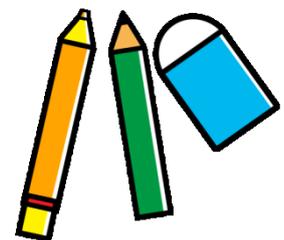
14:00～ 講師によるまとめとミニ講義 ⑤

助言者 この街きっず学園

言語聴覚士 野沢 由紀子先生

#### 【症例検討会の流れ】

- ①事例紹介
- ②グループ討議
- ③討議内容の発表
- ④ケース児を招いて実際場面で検討&講師による支援方法のデモンストレーション
- ⑤講師によるフィードバック&まとめ



## 第6回研修会 症例検討と講演会

症例検討では、昨年10月に朝日大学歯学部へ赴任されました谷口裕重先生に2症例提示していただきました。講演は、摂食嚥下リハビリテーションにおいて、呼吸器、口唇、舌、下顎の動きの影響は大きく、特に、舌の機能の重要性については最近の論文でも散見されますが、訓練法について詳述は少ない状況です。小児の発音指導では正しい発音を導くための舌の使い方、練習法が多く実践されています。これは摂食嚥下リハビリテーションにも活用できるものが多いと感じています。そこで今回は、東海学院大学の松森久美子先生に小児の発音指導についてご講演をお願いしました。

松森先生は横浜市の肢体不自由児養護学校で言語訓練を担当されており、その後、横浜市難聴言語通級指導教室に勤務されていました。講演では、小児構音障害の評価と指導の流れ、構音指導の実践についてお話されました。評価と指導の流れでは、課題の抽出、目標音の順序の決定、プログラムと方法について具体的に説明され、とても参考になりました。実際の練習方法では、発声発語器官の状態の確認ということで、姿勢、首とあごの位置、肩回り、顔周りの緊張、口唇閉鎖、舌骨上筋、下筋群の動きなどについて、そして、演習を交えて口唇、舌、呼吸の誘導練習、正しい構音を引き出すための練習などについて具体的に説明されました。「舌出しと舌出し母音」については、翌日から実践されている方も多いと思います。松森

先生のお話は長年の経験から裏付けされたお話で得るものがとても多い研修会でした。ありがとうございました。



日時：平成31年3月2日(土) 13:30~16:30

会場：朝日大学

1. 症例発表 25分×2

①国立病院機構東名古屋病院 言語聴覚士 豊島義哉氏

②朝日大学 歯学部 歯科医師 谷口裕重氏

2. 講演 90分

「小児の発音指導について～その考えと実際～」

東海学院大学人間関係学部心理学科

言語聴覚士 松森久美子先生

### 年会費納入について

納入金額：令和元年度分 会費 1,000円

納入期限：8月末日まで

前年未納者は2,000円

振込先：郵便振替 加入者 岐阜県嚥下障害研究会  
口座番号 00890-3-114142

- \* 通信欄に「〇〇年度分会費」とご記入願います。
- \* “振替用紙の控え”をもって 会員証とします。
- \* 2年間会費を滞納すると、自動退会となります。

(注) 未入会者は 入会申込み手続きが 別途必要！  
問合わせ：岐阜県嚥下障害研究会事務局まで

### 4月より事務局が移転しました！

505-0301

岐阜県加茂郡八百津町八百津 1286-7

## 岐阜県嚥下障害研究会

FAX：0574-43-1320

Mail：jimukyoku-honbu@gifu-psd.com

**入会希望者は研究会ホームページより、入会申込書をダウンロードし、事務局へ郵送してください。**



# 研修会・学術講演会案内

## 第22回 摂食嚥下リハビリテーション 初級課程講習会

日時：令和元年8月18日（日）  
9時30分～16時10分

場所：タウンホールとみか

内容：1. 摂食嚥下のメカニズム  
2. 摂食嚥下障害者の加齢による影響  
3. 摂食嚥下障害の評価  
4. 間接訓練、直接訓練  
5. 小児の食支援（発達と支援）  
6. リスク管理：低栄養、脱水、誤嚥、窒息  
7. 歌（音楽）を介しての発声発語練習（演習）  
8. 口腔ケア（演習を含む） など

講師：加藤孝憲氏 土岐市立総合病院 言語聴覚士  
川口千治氏 朝日大学医科歯科医療センター 歯科衛生士  
柴田一浩氏 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター  
言語聴覚士  
豊島義哉氏 国立病院機構東名古屋病院 言語聴覚士

参加費：会員2,000円 非会員3,000円

## 第1回研修会 小児領域（通算54回）

日時：令和元年7月14日（日）10時～16時

場所：可児市福祉センター

内容：「お母さんと子どもが笑顔になれる  
ミキサー食、マッシュ食、胃ろう食の作り方」

講師：大高 美和先生 管理栄養士  
NPO 法人ゆめのめ代表理事（東京都日野市）

9:30～	受付
10:00～12:00	講義
12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～15:30	調理実習
15:30～16:00	質疑応答・事務連絡 等

参加費：会員 3,000円 非会員 3,500円  
学生 2,000円

定員：50名（先着順）

締め切り：令和元年7月5日（金）必着

## 第2回研修会 成人高齢者領域（通算56回） 加茂歯科医師会後援

日時：令和元年10月13日（日）10時～15時

場所：タウンホールとみか

内容：「カニや白エビ」の関係から導く食支援！？  
～医療と生活のはざままで「食」を考える意味とは～

講師：長谷剛志先生 歯科医師  
公立能登総合病院 歯科口腔外科部長

10:00～12:00 講演  
「カニや白エビ」の関係から導く食支援！？

13:00～14:30 症例検討  
「いーとみるカード」によるワークショップ

14:30～15:00 まとめ、質疑応答

参加費：会員 2,000円 非会員 3,000円  
加茂歯科医師会会員 2,000円

定員：60名

## 第22回岐阜県嚥下障害研究会 学術講演会 東濃大会

テーマ：終活に向けた食べる支援～当事者や家族に寄り添う  
意思決定のあり方、その後のケアについて～

日時：令和元年12月1日（日）

場所：パロー文化ホール 多治見市

10:00～12:00 特別講演  
「認知症高齢者の食支援～終末期をみすえたアプローチ～」  
野原幹司先生 大阪大学歯学部 准教授（歯科医師）

12:00 嚥下補助食品・口腔ケア用品展示

13:00～14:30 講演  
人生最後の食支援を問う「お食い締め」  
牧野日和先生 愛知学院大学 心身科学部 准教授

14:30～15:30 グループワーク

参加費：事前 会員 2,000円、非会員 2,500円、学生 700円  
当日 会員 2,500円、非会員 3,000円、学生 1,000円

申し込み：10月1日受付開始

編集 令和に元号が変わりました。今後もモグモグ通信を通して摂食嚥下障  
後記 害児者への支援に関する情報発信をしていきたいと思ひます。TOYO